令和４年３月６日

指　導　者　各　位

石 川 県 野 球 協 会
審判部長　毛利　浩太郎

日頃は、野球を通じて生涯スポーツの発展と競技力の向上にご協力いただきありがとうございます。

さて、本年度(令和４年度)の公認野球規則の改正に伴い、投球姿勢に関する事項及び走者が無い場合のセットポジション等について、全日本軟式野球連盟(少年野球(中学・学童))と日本高等学校野球連盟は、当然のことながら公認野球規則に基づくものの、日本高等学校野球連盟は高校野球特別規則が適用される部分もあることから適用規則が異なることが発生することとなります。

しかし、子供たちが学童野球から中学生そして高校生と末永く野球に親しんでいただくために、熟慮を重ねた結果、日本高等学校野球連盟の特別規則に準ずることが不要な混乱を招かないとの判断に至りました。

つきましては、戸惑うことのない環境を整えたいとの主旨にご理解賜り、指導者各位のご理解とご協力を宜しくお願い致します。

公認野球規則の改正点(実施をしない改正点)

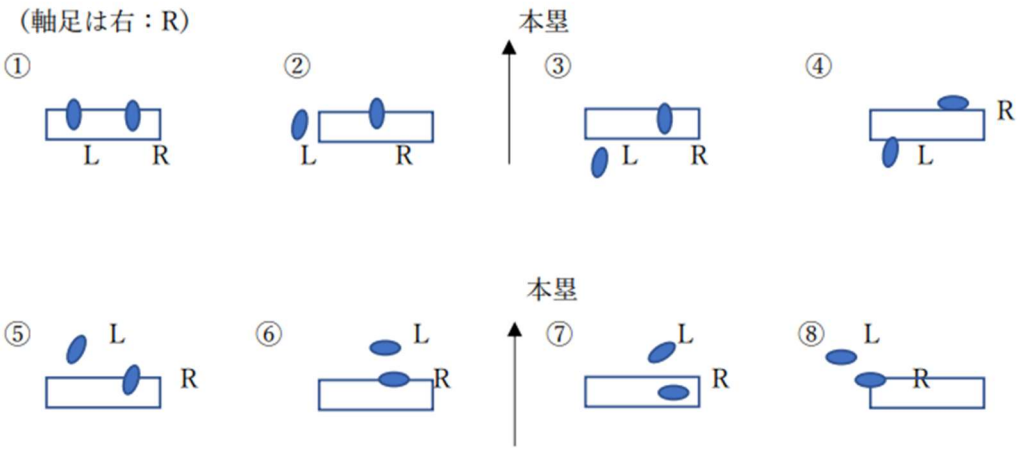
①軸足を投手板と並行でなく触れるタイプのワインドアップポジションの場合も、自由な足の置く場所の制限がなくなった。つまり、走者が塁にいるとき、自由な足全体が投手板の前方に置かれていたとしても、軸足が投手板と並行に触れていなければ、ワインドアップポジションからの投球とみなされることになる。

②走者が塁にいない場合、「投手板に軸足を並行に触れ、自由な足を投手板の前方に置いた姿勢」からワインドアップポジションとして投球することができるので、自由な足を一歩引いてから投球することも可能である。(規則5.07(a)(1)②)

③走者が塁にいる場合、上記の「投球姿勢」はセットポジションからの投球とみなされるので、自由な足を一歩引いてからの投球はボークとなる。
(規則７(a)(2)【注４】②、6.02(a)(1))

なお、この規則改正に合わせて、「投球姿勢」の図についても変更された。
5.07(a)(2)、【注 1】の削除により、セットポジションからの投球の際、走者がいない場合は、必ずしも完全静止する必要がなくなった。

投球姿勢
（本文 5.07a1;同 a2 参照）



1．走者がいないとき
①～⑧のいずれもワインドアップポジションとして投球することができる。
（軸足が投手板に触れてさえいれば、自由な足はどこに置いてもよい）

2．走者がいるとき
（1）①～⑤はワインドアップポジション。
（2）⑥～⑧は軸足を投手板に並行に触れ、自由な足を投手板の前方に置いているのでセットポジション。

※　石川県としては、高校野球特別規則（2022 年度版）改正に準じ、
高等学校・中学・学童では、走者の有無に関わらず
【１】　①～④ は ワインドアップポジション
【２】　⑤～⑧ は セットポジション
【３】　セットポジションからの投球の際、必ず完全静止